

取扱説明書

いい家具をいつまでも大切にお使いいただくために。

家具は、それぞれがもつ独特の機能のほか、使われている各種の素材にもいろいろな特性があります。

良い家具を、いつまでも美しくご愛用いただくためには、家具の機能、素材の特性を理解したうえで正しくお使いいただくことが大切です。

また製品に個別に付属されている取扱説明書・注意書きも熟読してください。

使用上の注意

- 家具は、ストーブなど火気のそばには絶対に置かないでください。火災の原因になります。
- 家具は、平らな場所に設置して下さい。平らな場所以外に設置されると、転倒や歪み、可動部の不良の原因になります。
- 家具を移動させる際は、床面を引きずらないで下さい。大人2人以上で、底部から全体を持ち上げるように運んで下さい。
- 直射日光が当たる場所や冷暖房器具・照明器具の近くなど、高温・湿気・乾燥の著しい場所での使用は避けて下さい。家具のひび割れ、歪み、劣化、カビの原因になります。
- フローリングや畳などキズつきやすい床では、敷物を敷いて使用して下さい。特に、クッションフロアの場合、接触する家具の塗料と化学反応をおこし、床を汚すことがありますので注意してください。
- 新築の建物や高温多湿になりやすいお部屋では、カビやダニが発生しやすくなります。家具を壁から離して設置してください。同時にお部屋の換気を定期的に行ってください。
- キャスター付き家具は床にキズが付く可能性があります。フローリングの場合、床のキズを防ぐために敷物を敷いてお使いください。
- 家具を乱暴に取り扱いしたり、用途以外に使用しないでください。特にお子様ひとりでの使用はさせないでください。
- 組立て式の家具は、商品に同封の組立て説明書にしたがって、順序よく、確実に組立ててから使用してください。
- 脚、ネジ、金具類などに緩みやグラツキがないか、定期的に点検してください。緩んでいる場合には、早めに締め直してください。
- 家具に電化製品などを収納する際には、十分なすき間をとり、通気をよくしてお使いください。すき間をとらずに使用されると、電化製品の発熱による火災や故障の原因になります。またコンセントの容量以上でのご使用はお止め下さい。
- 家具に食器や衣類を入れる際やご利用になる前に、製造過程での細かいごみや塵等がある場合がございますので、衛生的にご使用頂くために一度内部等を拭いてからご利用下さい。

椅子類

- 電動・可動タイプの可動機能部、本体とのすき間には絶対に手や足を入れないで下さい。ケガの原因となり危険です。また小さいお子様のご使用は避けてください。事故の原因となります。
- 椅子を踏み台代わりにするなど、座る目的以外では使用しないでください。転倒しケガや破損の原因になります。
- 椅子の上に立ったり、飛び跳ねたりしないでください。
- 座った状態で、椅子を傾けないでください。
- 肘部や背もたれの上に腰掛けたり、乗ったりしないでください。座面以外には絶対に座らないよう、ご注意ください。
- 回転機能が付いた椅子は、椅子の中央に腰掛けてください。不安定な姿勢で座ると、転倒や金具の破損の原因になります。
- 素肌では座らないでください。特に濡れた身体で座ると、張り地の劣化を早め、カビや汚れが生じる原因になります。
- 籐は天然素材のため、ケバ・ささくれなどが起こることがあります。そのまま使用されますとケガや衣服を傷める事がありますのでご注意ください。
- 麻・綿・革等の天然素材を使用した張り地は、汗や湿気により、色移りする場合がありますのでご注意ください。またジーンズ等の色落ちしやすい衣類から張り地に色移りする場合がありますのでご注意ください。
- ビニール製品などを長時間重ねたままにすると、変色・剥離の原因になりますので注意してください。
- ドライクリーニングされる場合は、クリーニング可能な商品かよくご確認の上、必ず専門業者にご依頼ください。また縮みの原因になりますのでタンブラー乾燥はしないでください。

箱物（食器棚・書棚・TVボード・収納家具）類

- 家具の安全性を高めるため、収納物は、家具の下段に重い物を入れるようにしてください。
- 家具の上（高所）には物を載せないでください。
- 棚受具は確実に取り付け、棚板には均等に物を載せてください。

- 扉などにぶら下がったり、引き出しに乗ったりしないでください。
- フラップ扉やスライド棚に乗ったり、腰掛けたりしないでください。
- 扉や引き出しを同時にいくつも開けて使用しないでください。重心が前方に片寄り、家具が転倒する恐れがあります。
- 上置きの開き扉を開けたまま、下置きの引き出しなどを使用しないでください。頭をぶつける恐れがあります。
- 扉の開閉には、扉が動く範囲に人がいないか、また、物が置かれていないか確認してください。
- 引き出しをいっぱい引き出すと落下しますので注意してください。
- 可動部の金具などに手を触れたり、極端な力を加えたりしないでください。
- 引き出しを強く閉めると前板破損の原因となりますので、静かにお閉め下さい。
- 引き出し内に容量以上の物を入れると底板抜けなどの原因となりますのでご注意下さい。
- 天板、棚板には耐荷重以上の物を載せないでください。
- 天板、棚板には直接熱いものや濡れたものを載せないで下さい。又、キズを防止するためにガラスやビニール等を敷いて使用しないで下さい。変形、変色等の原因になります。
- コンセント付家具に電化製品を接続する時は、コンセント側の総消費電力以内でご使用ください。

デスク・テーブル類

- 天板の上に立ち上がったり、腰掛けたりしないでください。転倒し、ケガや破損の原因になります。
- 天板の上には直接熱いものや濡れたものを載せないで下さい。又、キズを防止するためにガラスやビニール等を敷いて使用しないで下さい。変形、変色等の原因になります。
- 引き出しを引き出した状態で、上から押さえたり、重いものを載せたりしないでください。破損の原因になります。
- 欠けたり、キズの入ったガラス・石素材は強度が低下し、破損したりケガをする恐れがあります。
- キャスターや折りたたみ金具など、可動機能部、本体とのすき間に手や指を入れないでください。ケガの原因となり危険です。
- テーブル類の脚等の取り付け用金具（ネジ・ボルト類）は通常の使用により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。緩んでいる場合には、早めに締め直してください。
- 無垢板・ガラス・石素材テーブルには、天板が固定されていない製品があります。移動の時は天板部と脚部を大人2人以上でそれぞれ移動して下さい。天板を乗せたまま移動するとケガや破損の原因になり危険です。
- 無垢板・ガラス・石素材テーブルには、天板を固定されたまま移動すると脚部の重量に天板との固定部分が耐えきれない製品があります。移動の時は天板部と脚部を分解してから移動して下さい。天板と脚部を固定したまま移動するとケガや破損の原因になり危険です。

ベッド類

- 電動・可働タイプの可動機能部、本体とのすき間には絶対に手や足を入れないで下さい。ケガの原因となり危険です。また小さいお子様のご使用は避けてください。事故の原因となります。
- ベッドは、他の物とは離して、風通しのよい場所に設置してください。他の物と離さないで使用するとカビやダニが発生しやすくなります。
- マットレスの上に立ったり、飛び跳ねたりしないでください。ケガや破損の原因になり危険です。
- マットレスは、無理に折り曲げないでください。
- ベッドフレーム類の取り付け用金具（ネジ・ボルト類）は通常の使用により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。緩んでいる場合には、早めに締め直してください。

小物類

- 天板などには、不安定な物や重い物を載せないでください。
- ワゴン・キャスター付製品を移動させる際は、倒れやすい物を取り除いてください。転倒し、ケガの原因となり危険です。
- ポールスタンド等に物を掛ける際は倒れないように掛けてください。支柱やフック金具にぶら下がったり、無理な力を加えないでください。
- 壁掛け製品を取り付け・固定する時は、壁面の素材にあった取り付けネジ・ビス類をご用意ください。
- スタンド鏡などの転倒の恐れがある製品の前でお子様を遊ばせたりしないでください。事故の原因となります。
- コンセント付家具に電化製品を接続する時は、コンセント側の総消費電力以内でご使用ください。

お手入れ方法

木部

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れが目立つ場合は、ぬるま湯で薄めた中性洗剤（3～5％）で軽く拭き取り、その後きれいな水で固くしぼった布で水拭きしてから、乾拭きしてください。
- 化学ぞうきんは使用しないでください。塗装面のツヤが消えたり、シミになる場合があります。
- オイル塗装製品については柔らかい布で軽く乾拭きと、使用状況に応じて専用オイルでメンテナンスしてください。

革張地

- 日常のお手入れは、柔らかい乾いた布で軽く拭いてください（化学ぞうきんなどは使用しないでください。）
- 使用状況に応じて半年に1～2度、革の仕上げ方法に合った専用メンテナンスキットでお手入れしてください。メンテナンスキットをご利用の時は必ず目立たないところでシミ・色落ちにならないか確認してから行ってください。
- 靴用クリーム、溶剤（シンナー、ベンジン、油性クリーナーなど）、車・床用ワックスは使用しないでください。
- 汚れ落としには、指定のレザークリーナーでお手入れすることをお勧めします。

布張地

- 定期的に掃除機でゴミを吸い取るか、軟らかいブラシでブラッシングしてください。
- 飲み物や食べ物の汚れがついた場合は、ぬるま湯で薄めた中性洗剤（3～5％）で汚れを落とし、固く絞った蒸しタオルで洗剤分をよく拭き取り、乾拭きしてください。（吸水性のある布でやさしく拭き取ることがポイントです。）なお、毛足のあがるパイル織りは、パイルが起きないことがありますので、ご注意ください。
- ドライクリーニング可能なカバー類は、必ず専門業者にスクリーン乾燥（平干し）をご指定の上、ご依頼ください。縮みの原因になりますのでタンブラー乾燥はしないでください。
- ご使用前に専用プロテクターでメンテナンスをすると汚れにくく、また汚れが付いた場合も落としやすくなります。

合成皮革

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 飲み物や食べ物の汚れがついた場合は、ぬるま湯で薄めた中性洗剤（3～5％）で軽く拭き取り、その後きれいな水で固くしぼった布で水拭きしてから、しっかりと乾拭きしてください。
- 溶剤（シンナー、ベンジン、油性クリーナーなど）、は使用しないでください。

プラスチック・金属部

- 取っ手や蝶番など、金属類の表面には、サビや変色を防ぐための塗装を施しています。ふだんは、柔らかい布で軽く乾拭きしてください。
- 汚れた場合は、お湯で薄めた中性洗剤で軽く拭き取り、その後よく水拭きしてから、乾拭きしてください。可動する金属部には、さらに潤滑油を薄く塗って、そのあと柔らかい布で軽く拭き取ってください。扉の蝶番金具には、半年に一回程度は、可動部に少量の潤滑油を差しておく、スムーズな動きが保てます。

ベッドマットレス

- 時々掃除機をかけてホコリをとり、風通しのよい場所で通気して下さい。
- マットレスは、局所的な変形を防ぐために、年に3、4回程度、反転・逆転させてください。（ただし、リクライニングベッド用マットレスなど反転・逆転できない製品もあります。）